

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.2.1

No.79

「第十八富士山丸事件」というのを覚えていますか。日本の貨物船の船長と機関長が北朝鮮にスパイ容疑で七年間も拘束された事件です。

一九八三年、北朝鮮との交易をしていた富士山丸内で北朝鮮人の密航者が潜伏していたのを発見されます。本来本国に連れ戻すべきところが、日本の役所の指示で身柄を役所に預けます。紅粉（べにこ）船長は再び北朝鮮に船を出すことを余儀なくされ密航者を引き取りに行きます。が「取り調べ中」を理由に断られ、そのまま北朝鮮の港に入りました。そこで船を差し押さえられ乗組員全員抑留させられたのです。密航者がその後亡命を申請し、北朝鮮に戻らないことがわかると北朝鮮政府は、態度を硬化し、紅粉さんと機関長の抑留が続きしました。世界的情勢は北朝鮮のテロ行為を通じて非難が高まっております、国交のない日本は解放の糸口をつかめぬまま時は流れて行きました。その間、拷問というべき取り調べが行われていったのです。機関長は自殺未遂を図ります。命の危険まで感じ、偽りの自白調書にサインさせられてしまいました。結局スパイ容疑で「十五年の教化労働」という判決を受け、冬には零下二十度、暖房なしという過酷な生活を強いられました。交渉の末、七年ぶりの一九九〇年にやっと帰国

人生の嵐を越えて



できました。「北朝鮮で受けた扱いを口外すれば、家族に危害が及ぶ」と脅されていたので帰って来ても当時のことを公表することはできませんでした。一九九五年の阪神・淡路大震災を

機に、今のうちに語っておかなければと示され、手記を発行するに至ったのです。

実は、紅粉さんはクリスチャンでした。それほど熱心ではなかったようですが、このような状況で唯一信頼でき、慰め、励ましとなつたのは聖書だけでした。手記の中から紅粉さんの信仰が真実で、聖書の真理をつかんでいることがよくわかることを抜粋します。

「キリストによって罪赦された私は、キリストに倣って、密航者ミン・ホングを赦すことができるか。『帰してやる』と、何度も私や機関長をだました者を赦せるか。これは生易しい問題ではない。人には、その時々信仰の応用問題がある。私は、帰国後にミン・ホングと会う機会があったので、こう伝えた。『お前のことを赦そう。まじめに生活するように。』」

（「人生の嵐を越えて」より 改変あり）

これは聖書の命令だからした、というものではありません。聖書は、人は自分の罪は大目に見ても、他人の罪を簡単に赦せないものであること冷静に語ります。そんな愚かな人

間のすべての罪をイエスは身代わりに負ってくださったのです。究極の不正な裁判を受け、無実の罪でイエスは十字架にかけられました。それは予めイエス自身も語っていたことで、人間の愚かな行為を通して、身代わりの死を遂げる神の計画の一部だったのです。この神の愛を教えられ、神の思いに押し出されて、自分の罪が赦されたように、他人の罪も赦して行こうという思いが与えられたのです。

「…神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」

（第一コリント十章十三節）

この聖書のことばは奥様の峰子さんが台所の壁に掲げていたものです。神を信じているのにどうしてこんなことが起こるのか…。と思う方も多いでしょう。だれも神のすべての思いはわかりません。しかし、この結果を見るとときに最悪の状況の中でも神は守られるし、後からそのことを用いることができるということが明確にされたのです。何よりも紅粉さん自身が「北朝鮮に抑留されて初めて生けるまことの神に出会うことができたと確信しています。」と言い神を呪っていないのです。一番大変だった本人がこう言っているのに私たちが軽はずみにとやかく言えるのでしょうか。歴史上、最も不当な取り扱いをされたイエスこそ、この難問を解くカギなのです。



礼儀作法の授業

H

今回の礼儀作法の授業は特別、国語の授業との合同企画だったので、午前中は「俳句大会」、そしてそのあとから、「茶の湯―初釜を楽しむ」企画でした。

「俳句大会」では五・七・五で俳句を作り、色紙に筆ペンで書きました。(わたしは俳句を作るのが、すごく苦手なことで紹介できるようなものは一つありません...) 小学生の子たちのほうが、発想も面白くて、上手な俳句を作っていました。

礼儀作法の授業では先生が点心料理を作ってくださいました。点心とはお正月に食べる料理で、正式な食事の前後にとる簡単な食事のことです。先生は、一つ一つの料理をたくさんさんの時間をかけて、丁寧に作ってくださいました。まず生徒たちでそれぞれ役割分担し、四角の料理盆に盛り付けていきました。その時の注意事項は、①色を良く考えて並べる②縁起のよい植物を効果的に使う③手早くする、ことでした。私たちはただ並べるだけなのに、難しく、到底手早くできるようなものではありませんでした。どうやったら、きれいに見えるのか?と考えながら、てこずりつつ、なんとか仕上がりました。

授業が始まって、一時間後。やっとみんなが席について料理を頂きました。味はもちろん最高です!! 食事を頂く前、先生から「行く年を振り返り、反省もして、来る年を、無事迎えられることへの感謝しながら、いただきますしよう」と言われていたのですが、みんな食べることに必死で、何一つ会話もなく、ひたすら食べていました。

料理だけでなく、箸置きやつまようじ入れなども牛乳パックで作ってくださいました。箸置きはススを何回も塗っているの、牛乳パックとは思えないほどの立派なものでした。とても長い時間と手間をかけて、作ってきて下さった先生に心から感謝したいです。



←書き初めの様子



今年で2回目の集会での食事会。自慢の料理を携えてクリスチャン談議に花を咲かせます。←



こんなことしました! 行事報告

一月

- 二日 教会で食事会
- 三日 書き初め会
- 五日 Yファミリー来訪
- 十日 新春合同学習会
- 十二日 R・十一歳誕生日
- 十五日 Jクラブ「おもちゃつき」
- 十五日 センター試験
- 十八日 塗り絵・工作教室
- 二十五日 お作法教室(点心)
- 二十七日 合同公文教室・タンザニア・レポート

お正月

R

書き初め会をおじいちゃん、おばあちゃんの家でしました。私は「喜び」と書きました。みんな真剣に半紙にむかっていた。久しぶりに書くので緊張しながら書いている人もいて、見ているだけで楽しかったです。特におじいちゃんはいつも土曜日に、私と一緒に字の練習をするのでとてもじょうずでした。昔の漢字と今の漢字の違いなどをよく教えてくれます。私は習字が大好きなので、楽しいひと時でしたが、みんなも意外と楽しかったよう来年もしよう、と言っていました。

十五日には、土曜学校のもちつきがありました。私もおもちをつかせてもらいました。きねは重かったけど、がんばってつきました。丸めるのは、毎年十二月におじいちゃん、おばあちゃんの家でするので慣れていたので、きれいにできました。きなこ・あんこ・酢もち・砂糖じょう油をつけて食べました。つきたてのおもちはやわらかくて、おいしかったです。一番おいしかったのは最後に作ってくれたあべかわもちでした。あまりのおいしさに早く食べ過ぎてしまったので、一年の初めにみんなに参加できたことがうれしかったです。

編集後記

センター試験N家該当者第一号M。みながヒヤヒヤ・ドキドキしながら送り出しました。寒さとプレッシャーに耐えて祖父の家にこもってがんばった成果が出ることを祈りつつ...